

# インド中銀3会合連続利下げ

## ポイント① 政策金利は約9年ぶりの5%台

インドの中央銀行であるインド準備銀行（RBI）は、6月6日の政策決定会合で政策金利（レポレート）を0.25%引き下げて5.75%としました。今年2月、4月、6月の3回の政策決定会合で連続的に利下げが行われたこととなります。政策金利は、2010年以來の低水準となりました。

インドの実質経済成長率は1～3月期には前年同期比+5.8%と5年ぶりの低水準となる一方、消費者物価指数が昨年後半から中期目標の4%を下回って推移していることが、利下げの国内的な背景として指摘できます。

## ポイント② 米利下げ観測で緩和余地拡大

さらに、世界的にも景気に減速感が見え、米国においても急速に利下げ観測が強くなっています。

インドなどの新興国では、国内の景気やインフレが減速しても、米国が金利上昇局面にある時には、資本流出や通貨下落への警戒感から金融緩和が行わないにくる傾向があります。

米国債利回りが頭打ちとなった昨年末頃からインド・ルピーの対米ドル為替レートが堅調に推移していることが、インドの金融緩和余地を広げていると見られます。

## ポイント③ 構造改革を金融緩和で下支え

5月のインド総選挙では与党が圧勝し、市場で評価の高いモディ政権が続くこととなりました。モディ政権は、インド経済の中長期的な成長力を高めるような構造改革に取り組むことが期待されています。

ただ、構造改革は、必ずしも短期の景気にプラスに働かない面もあります。金融緩和によって景気を下支えすることで、構造改革を進めやすくすることも、インド準備銀行に求められるもう一つの役割と言えるでしょう。

図1：インドの消費者物価指数と政策金利

期間：2012年1月～2019年6月、月次

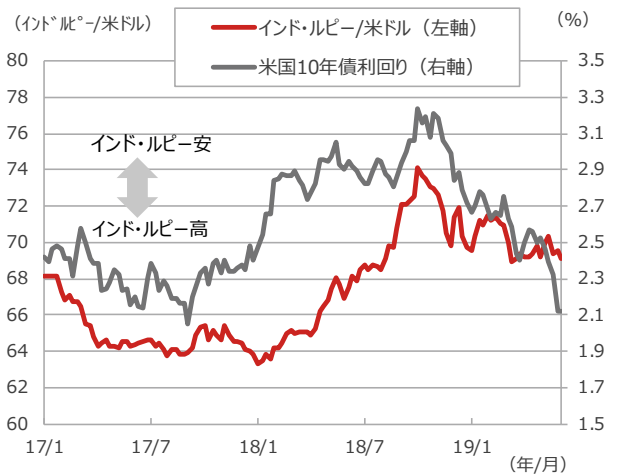


(注) 消費者物価指数は2019年4月まで

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：インド・ルピー対米ドルレートと米10年債利回り

期間：2017年1月6日～2019年6月6日、週次



(注) 利回りはBloomberg Generic

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

6月12日 インド消費者物価指数(5月)  
6月12日 インド鉱工業生産指数(4月)  
6月19日 米国金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。